

図 2b. 短期的 SSE のマグニチュード頻度分布. 2001 年から 2008 年まで, 四国, 紀伊半島, 東海地域で断層パラメタが推定された短期的スローリップイベントのモーメントマグニチュードの積算頻度分布.

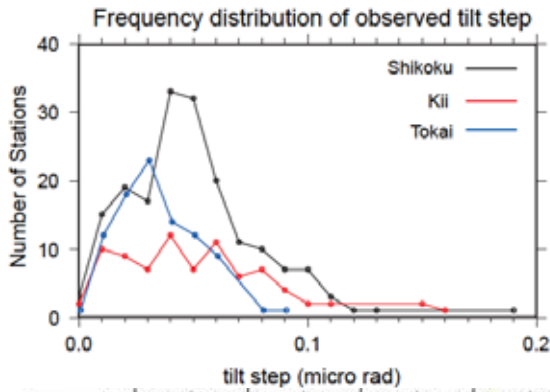


図 2c. 観測された傾斜ステップ量頻度分布. 2001 年から 2008 年まで, 四国, 紀伊半島, 東海地域で検出されてきた短期的 SSE のモデル推定に利用された傾斜変化量の頻度分布. 観測された傾斜ステップのほとんどは  $0.1 \mu$  radian 以下である.

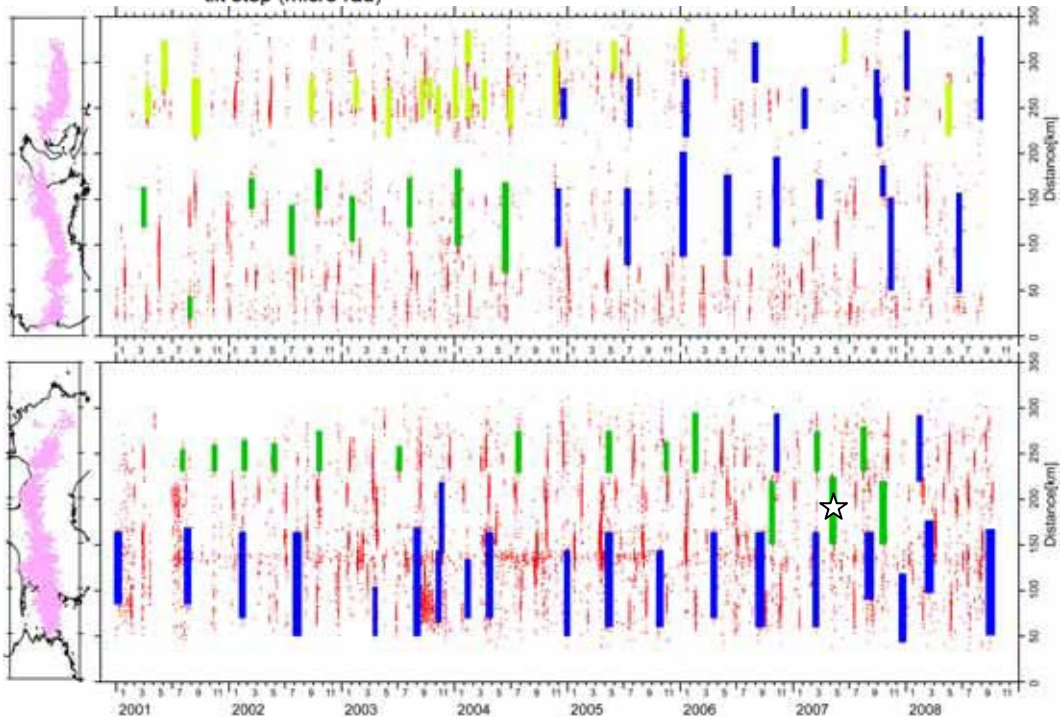


図 2d. 短期的 SSE の発生 (検出) 状況. 深部低周波微動の時空間分布に, SSE の発生 (検出) 状況を重ねたもの. 青が, 複数観測点で傾斜変化を観測し SSE の断層モデルが推定可能であったもの, 緑が, 観測数が少なく SSE としての断層モデルは推定できなかったが, 微動活動に同期した傾斜変化を捉えることができた場合である. また, 黄緑は, 小林・他(2006)によって気象庁ひずみ計において観測された短期的 SSE を示す. ☆は 4.SSE 自動検出で新たに断層モデルが推定されたイベントである (図 4c).